

糖尿病

合併症を招きやすい人の

共通点



レーザー治療を受けた。失明は免れたが、高血糖 日、小指の付け根に黒い状態が続けば悪化は避けられない。本格的なインスリン治療が始まった。

そんなKさんは、ある

アザのようなものができていることに気づく。し、腐敗した組織の下か、痛くも痒くもなから骨が見えている状態だったのをそのまま放置して悪化。それ以上、瘻瘻している。徐々に大きく、親指以外の4本をブヨとした感触があった。切断することになった。ため、糖尿病治療を受け、現在、歩行リハビリを受けているKさんは「も

腎症 網膜症 神経障害

糖尿病で怖いのは合併症だ。高血糖によって全身の血管が傷んでしまうことで、さまざまな病気を引き起こす。中でも、失明につながる網膜症、人工透析につながる腎症、下肢切断につながる神経障害が3大合併症と呼ばれている。

しかし、治療を続けて合併症が出ないまま天寿をまっとうできる患者がいる一方、治療を受けていても合併症を発症する患者もいる。

糖尿病専門医で、「インスリンが少なくありません。そこから治療を始めて、多忙で面倒だからと中断する人が多いので、糖尿病には『リガシ』したり、血糖がそこそこ『エフェクト』(適産効)コントロールできた段階から治療を始め、血糖値が安定していた

「たがえば夜勤があるなど仕事も不規則な人は、どうしても食事も睡眠が偏り、生活習慣の改善がままならないケースが多い。血糖コントロールがうまくいかず、合併症が進んでしまいがちです。しかし、多忙の中でも、食事はド力食いを避け、必ず野菜を一品加えて最初に食べるようにしたり、禁煙したり、努力できることは、いっしょにあります」

治療を始める時期が重要

「たがえば夜勤があるなど仕事も不規則な人は、どうしても食事も睡眠が偏り、生活習慣の改善がままならないケースが多い。血糖コントロールがうまくいかず、合併症が進んでしまいがちです。しかし、多忙の中でも、食事はド力食いを避け、必ず野菜を一品加えて最初に食べるようにしたり、禁煙したり、努力できることは、いっしょにあります」

さらには、心筋梗塞や脳卒中を招く血管疾患、がん、認知症との関係も

Kさんは2004年に糖尿病と診断されたが、自覚症状もなく、まともな治療は受けなかった。しかし、5年ほどすると目が見えにくくなってきたため、自宅近くの病院を受診。目の網膜に新生血管を形成し、出血を防ぐために

Kさんは2004年に糖尿病と診断されたが、自覚症状もなく、まともな治療は受けなかった。しかし、5年ほどすると目が見えにくくなってきたため、自宅近くの病院を受診。目の網膜に新生血管を形成し、出血を防ぐために

Kさんは2004年に糖尿病と診断されたが、自覚症状もなく、まともな治療は受けなかった。しかし、5年ほどすると目が見えにくくなってきたため、自宅近くの病院を受診。目の網膜に新生血管を形成し、出血を防ぐために

Kさんは2004年に糖尿病と診断されたが、自覚症状もなく、まともな治療は受けなかった。しかし、5年ほどすると目が見えにくくなってきたため、自宅近くの病院を受診。目の網膜に新生血管を形成し、出血を防ぐために

Kさんは2004年に糖尿病と診断されたが、自覚症状もなく、まともな治療は受けなかった。しかし、5年ほどすると目が見えにくくなってきたため、自宅近くの病院を受診。目の網膜に新生血管を形成し、出血を防ぐために

Kさんは2004年に糖尿病と診断されたが、自覚症状もなく、まともな治療は受けなかった。しかし、5年ほどすると目が見えにくくなってきたため、自宅近くの病院を受診。目の網膜に新生血管を形成し、出血を防ぐために

Kさんは2004年に糖尿病と診断されたが、自覚症状もなく、まともな治療は受けなかった。しかし、5年ほどすると目が見えにくくなってきたため、自宅近くの病院を受診。目の網膜に新生血管を形成し、出血を防ぐために